

1 次の文章を読み、以下の各問に答えなさい。

みなさんには、後に出てくる「図像」を「深読み」的に考察、分析してもらおうと思っています。以下、いくつかのことを学びつつ、「解説A・B」を読み、ついで、考察、分析へと進んでもらえればと思います。

【解説A】 (1), フランスをはじめ、「白人」たちが権力を握る「西洋」の強国は、大々的な(2)化を経て、圧倒的経済力、軍事力を得ると、第一次世界大戦(1914-18年)のころまでには、世界の地表の80%以上を支配します。大量に作り出される商品の販売先や原料を確保するため、アジアやアフリカを次つぎと侵略しては、その植民地にしていったのです。「西洋」の強国は、このような行為をこう説明して正当化しました。「我々西洋の白人が、野蛮なアジアやアフリカを文明化してあげるのだ」。このごう慢で人種差別的な正当化の理屈は、「西洋」の強国にとってばかり「都合のいい物語」と言えるでしょう。

【解説B】 「権力を握る西洋の白人」と言っても、実際に力を持っていたのは「白人男性」たちです。第一次世界大戦前、「白人」であってもほとんどの「女性」は選挙権も社会的活躍のチャンスもなかったのです。「西洋」から植民地へと向かった人々の大半ももちろん「白人男性」たちです。そして、彼らの多くは、そんな性差別的な状況を不思議とも思わず、「もうひとつの都合のいい物語」を共有していました。それはやはりごう慢で性差別的な、そして、またしても人種差別的な「物語」です。「アジアやアフリカは有色人種の世界で、そこでは有色の男性たちが、有色の女性たちを理不尽に支配している。自分たち白人男性は、そんな有色男性から有色女性を救い出すためにアジア、アフリカに行くのであって、だから、世界中の有色女性たちは、白人男性が来てくれるのを待ちこがれているのだ」。ここでの有色女性には、まだ見ぬ「西洋白人男性」に片思いしつつ、ただただその登場を待ちわびているばかりの存在なのでした。

それにしても、このように「白人男性にばかり都合のいい物語」は、彼らに侵略

される側からは、どのように見られていたのか？ 例えば、ということで、第一次世界大戦のころの中国の反応を見てみます。

中国は(3)戦争(1840-42年)以来、「西洋」の強国からの侵略を受け続けていましたが、第一次世界大戦当時は、急速に力を付けてきた日本からも侵略を受けていました^①。だから中国国民の間では、「西洋」はもちろん、日本への反発も強まっていました。そして同時に中国政府も、侵略者の言うがままということで、厳しく批判されています。

ところで、これから見る **図像** もそうなのですが、ときに「中国政府＝女性」として描かれることがあります。どうやら中国政府は、侵略者にこび、へつらって、やすやすと侵略を受け入れているとみなされていて、それはまるで「女みたいだ」ということで批判されているようなのです。現代の感性からすれば、受け入れがたい発想であることを確認した上で、この **図像** と **解説A・B** を「深読み」していきます。

例えば、**解説A・B** の「物語」、つまり「西洋白人男性」目線以上のような東アジアの状況をとらえなおすといろいろなことが見えてきます。その舞台、東アジアは「有色」の世界です。**解説A** の「物語」にそくして言えば、そこは十分に「(ア)」な所でなければなりません。そうでなければ、そこを「(イ)」化してあげる」ということにならないからです。また、**解説B** の「物語」にそくして言うと、中国を侵略する日本は「理不尽な有色男性」、中国は「理不尽に支配される有色女性」ということになります。とすると、「ここは西洋白人男性の出番^②ということになるでしょう。

では実際の歴史はどのように進んだのか。このときの中国について結論的に言うと、**解説B** の「物語」のようにはぜんぜん進みませんでした。第一次世界大戦は半年におよぶ講和会議を経て、(4)条約(1919年)によって決着しますが、「西洋白人男性」たちの強国が、中国を救うことはなく、かえって日本の中国に対する侵略結果をそのまま承認してしまうのです。これに対して中国国民は激しく反発し、それは、(5)と呼ばれる大規模な反侵略の動きとして表れます。しかし一方で、「西洋」の強国は **解説A** の物語をあきらめるつもりはなかったようです。日本がこの講和会議で主張した「人種差別撤廃」という提案は、却下されて

います。西洋の強国がその侵略を正当化する **解説A** のあの「物語」は人種差別なしには成り立たないことを思い起こしましょう。

このように、「西洋」の事情に左右される「物語」ではありますが、歴史を考える道しるべとしては大切です。とにかく、これらの「物語」を知っている人は、これらの「物語」を使って「深読み」することも、「深読み」しないこともできますが、これらの「物語」を知らない人は、これらの「物語」を使って「深読み」することは決してできないからです。そして、さらに言う、これらの「物語」に潜^{ひそ}んでいる問題は今も解決されているとはとても言えないからです。



図像

この「花嫁」の雰囲気、明らかにワクワクしている感じがすよね、これからやってくる「花婿^{はなむこ}」を待ちかねているようなたたずまいが描かれています。この作品のなかで中国政府がからかわれていることは明らかでしょう。でも「花婿」は誰？ ポイントはここに 있습니다。この雑誌、実は、中国語だけでなく、英語を併記していました。その読者には「西洋白人男性」が想定されていた

最後は **図像** の解説、分析です。

このイラストは、中国初の漫画専門雑誌『上海滑稽^{シャンハイパック}』創刊号(1918年)の表紙です。作者沈^{ちん}洳^{はくじん}塵は、中国を食い物にする侵略者や、言われるがままに侵略を受け入れる中国政府を皮肉な笑いで批判するその作風で、たいへん人気がありました。そして、このイラストもそんな作品のひとつに他なりません。

イラストは中国政府の代表(中華民国総統)に就任したばかりの徐^{じょ}世^{せい}昌^{しょう}という政治家を描いたものですが、その徐世昌は、イラスト中央で「結婚式直前の花嫁」のように描かれて

はずなのです。とすると、この「図像」は、彼ら「西洋白人男性」をもからかった作品だ—という「深読み」^④ができるかも知れません。

それにしても、「ひげのおじさんの花嫁姿を描くこと」が、どうして「からかい」
として成立するのでしょうか？ この問題については、中学、高校を通じて考え
を深めてほしいと思います。

問1 下の語群から適当な語句を選び、空らん(1)～(5)に当てはめ
なさい。

イギリス, 韓国, スペイン, 中国, 日本, ロシア, アヘン, 日清, 日中, 南北,
工業, 商業, 農業, 義和団運動, 五四運動, 米騒動, 三一独立運動,
ベルリン, ヴェルサイユ, ポーツマス, ロンドン

問2 空らん(**ア**)(**イ**)に適当な語句を当てはめなさい。ただし語句は
「解説A」の「物語」から抜き出すこと。

問3 以下の語句を用いて、下線部①にいたる日本の歴史の流れを説明しなさい。
【日露戦争, 殖産興業, 条約改正, (対華)21ヶ条要求】

問4 下線部②について。なぜそう言えるのか、説明しなさい。

問5 下線部③について。今も克服^{こくふく}されていない「問題」を2つ指摘しなさい。
「解説A・B」から抜き出すこと。

問6 下線部④について。次の文章(1)～(3)の説明としてふさわしいものを記号ア～エから選びなさい。

- (1) 「西洋白人男性」が、侵略対象の中国を「女性」とみなしていることを、沈泊塵は見透かしている。
- (2) 「有色女性はみんな自分たちに片思いしてる」というような「西洋白人男性」たちの勘違いを、沈泊塵は見透かしている。
- (3) 沈泊塵は、「西洋(白人男性)」が「中国(有色女性)」を救ってくれるはずがない、と思っている。

- ア (1)は正しいが、(2)(3)はまちがっている。
- イ (1)(2)は正しいが(3)はまちがっている。
- ウ (1)(2)(3)とも正しい。
- エ (1)(2)(3)ともまちがっている。